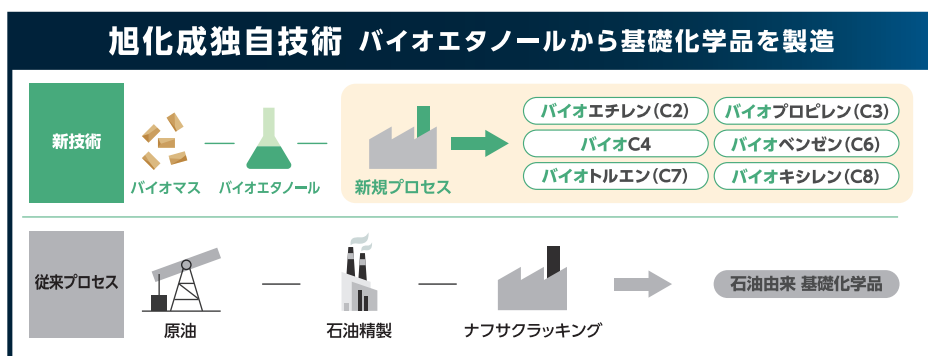


サーキュラーエコノミーへの貢献

開発中
(2027年上市予定)

より多くの自動車部品をバイオマス由来に



提供価値

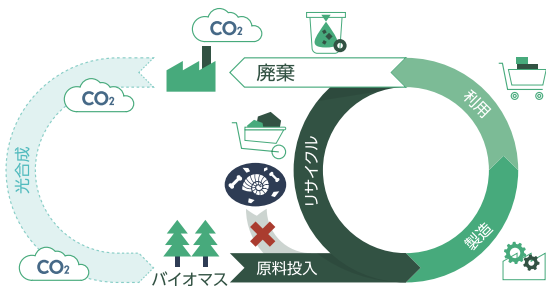
- ▶ バイオマス原料転換により、石油使用量・CO₂排出量削減に貢献
- ▶ より多くの部材をバイオマス原料由来で製造可能
- ▶ 既存品(石油由来)と同一性能のため、材料評価の手間を軽減
- ▶ サプライチェーン川下での新たな設備が不要

バイオ化可能な材料例

- ▶ PP, PA, PE, PET, PC, ABS, エポキシ樹脂
- ▶ ウレタン(イソシアネート)

バイオマス由来原料の役割

- ▶ 現在各国で進められている3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取組ですが、すべての材料がリサイクルに適しているわけではありません。従って3Rに加え、バイオマスプラスチックの使用が増えれば、化石資源の使用を減らすことができ、更なるCO₂削減効果が期待できると言えます。



① リサイクルに適しない材料への適用

- ・リサイクルが難しい材料(塩化ビニル樹脂、熱硬化樹脂等)
- ・回収が難しい化学品(洗剤、塗料等)
- ・回収は出来ても分離が難しい複合材など

② 新規投入材料への適用

- ・すべての製品に寿命があります。3Rの取組が加速することで、全体の化石資源使用量は減りますが、それでも新規に投入する材料は必要です。

その他製品情報

開発ステータス

大規模実証準備段階

背反懸念事項

原材料価格としては石油由来原料よりもコストUP
マスバランスアプローチ式のバイオマス化学品の市場の認知・理解不足